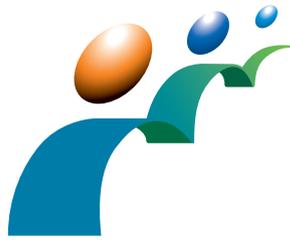




回復期リハビリテーション病棟協会 セラピスト10か条(第2版)

2018年2月

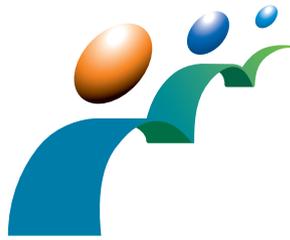
1. リハビリテーションマインドをもって
専門職の使命を果たそう
2. 心身機能の改善を図ろう
3. 生活場面でのADL向上を促進しよう
4. ADLの獲得に向けて
適切な装具・車椅子・福祉用具を導入しよう
5. 患者の行動と疾病の危険徴候を見逃さず、
事故や感染を予防しよう
6. カンファレンスは、定期的に多職種で開催し、
今後の方向性を多職種で検討・一致させよう
7. 記録や情報伝達は
多職種が理解できる内容、言葉で表現しよう
8. 病棟や在宅で介護を担う家族や介護者とともに、
ケア方法を検討しよう
9. 退院に向けての環境調整は、過不足なく行い、
地域スタッフに繋いでいこう
10. 患者に寄り添い、その人らしい社会参加を支援しよう



回復期リハビリテーション病棟協会 セラピストのマネジメント 5か条(第2版)

2022年8月

1. チーム組織・業務体制を整え、改善活動を推進しよう
2. 専門性・協働性・主体性のある人材を育てよう
3. データを収集・分析し、質向上に活用しよう
4. 収益・費用を健全化し、適切なサービスを維持・向上しよう
5. 医療安全・感染防止に努め、
安全で衛生的な病院環境をつくろう



回復期リハビリテーション病棟協会 PT・OT・ST 5か条(第2版)

2022年8月

PT 5か条

1. 筋力、関節可動性、姿勢バランスなどの運動機能を回復させよう
2. 全身の部位・状態などを観察し、不動による疼痛・虚血を予防しよう
3. 呼吸・循環機能を高め、社会生活に必要な体力の向上を図ろう
4. 課題にそった運動学習を促し、実地的な基本動作を高めよう
5. ADLの自立に向けて運動療法、物理療法などを駆使しよう

OT 5か条

1. 地域生活の拡大・充実(再建)に向けて、
作業^(注)に焦点を当てた個別性のある支援を行おう
※注:作業とは、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為であり、その人にとって目的や価値を持つものを指す
2. ADL・IADLなどの活動を評価・介入し、主体的な生活の習慣化につなげよう
3. 認知・行為、心理的側面を包括的に捉え、その人らしい作業の実現を援助しよう
4. 生活行為に活かせる身体機能/操作機能の改善・獲得に取り組もう
5. 自助具や福祉用具を駆使し、
対象者を取り巻く環境を調整することで作業遂行を充実させよう

ST 5か条

1. コミュニケーションを阻害する失語症や構音障害を改善し、
意思疎通の向上に努めよう
2. 生活の場で代償手段や環境調整等により、コミュニケーション活動を拡大しよう
3. 摂食嚥下機能を高め、安全な経口摂取を支援しよう
4. すべての活動に影響を与える認知能力をとらえ、必要な情報を発信しよう
5. コミュニケーション、食事、認知の問題に関わり、
その人らしい社会生活への参加を支援しよう